

myoghi 29ennale

2010.7.21 WED — 2010.8.15 SUN

Aoki Ken 青木 健 Endo Natsuka 遠藤 夏香
 Otake Natsuki 大竹 夏紀 Kishi Kyohei 岸 恭平
 Koiso Tatsuya 小磯 竜也 Nukui Daisuke 温井 大介
 Nukui Yuko 温井 裕子 Hasemi Taichi 長谷美 太一
 Miki Manami 三木 真菜美

http://myoghi.jimdo.com

妙義ふるさと美術館
 MYOGHI HURUSATO MUSEUM OF ART

群馬県立近代美術館では「群馬青年ビエンナーレ」という30歳以下を対象とした公募展を開催しています。もともと群馬の若い作家たちの活動を奨励しようとはじめられたのですが、高いレベルで闘い合うことが地元作家たちにとっても刺激になるだろうということで、今は全国公募になっています。もしこの「群馬青年ビエンナーレ」の存在が「妙義29エンナーレ」開催に少しでもきっかけをくれたのだとしたら、美術展で働く者としてはうれしいことです。

最近では、各地で地域に密着したアート活動が盛んです。でもそういうものが、ただ広い展示場を求めて他所からやってきた作家たちによる、華やかな観覧客で賑わうこともままあります。作家がその土地で継続して活動していくためには、「アートシーン」の存在が必要になります。それは作家が、作品をみる人、買手人、批評する人などに出会うことで始めて生み出されるものです。群馬のような地方にも、作品を介したその出会いの場を提供する画廊や美術館は存在しますが、残念ながら「シーン」と呼べるものが形成されているとはいえない状況です。

群馬に生まれて作家を目指す人は多くは、地元の高校を出て東京の美術大学で学び、卒業後は東京にとどまらず作家活動を続けるか、地元を離れて仕事に就くか、選択を迫られることとなります。そこで作家の立場から「アートシーン」の形成に役立ちたいという思いから、温井大介は2008年にこの展覧会を立ち上げます。年に一度のアンヌル展として3回目となる今回、参加する9名の作家の大半が群馬県出身で、80年代生まれの20代です。

会場は、奇岩、怪石で有名な妙義山の裾に抱かれた「妙義ふるさと美術館」。車なら松井田砂蔵 ICから車で15分、バスならバスに乗って途中下車して徒歩10分程度です。群馬に「アートシーン」を作り出すためにもぜひ多くの人に展覧会を見てもらい、文句でもいらいらから作家に声をかけてもらいたいと思います。

来年はおそらく「妙義30エンナーレ」として開催されるのでしようが、もし「妙義29エンナーレ」があるならば、それは2039年のこと。50代になった彼らがそのとき果たした作家活動を返しているかどうかは、あなたはその一言にかかっているかもしれません。


田中隆也 (群馬県立近代美術館 学芸員)

myoghi 29ennale

http://myoghi.jimdo.com

2010.7.21 WED — 2010.8.15 SUN

ワークショップ
 「こどもとたのしむ美術館」 8.8(日) 13:00~
 3:00-14:00に会場に来て下さった方々に自由参加で絵を描いていただきます。
 15:00より参加作家たちによる作品講評会があります。ぜひご参加ください。
 ※画材はこちらで用意しております。



開館時間 / 9:30-17:00 (入館は 16:30 まで) ※月曜休館、最終日は 9:30-15:00 (入館は 14:30 まで)
 入館料 / 一般 : 300円 高校・大学生 : 150円 小・中学生 : 無料 65歳以上 : 半額
 身障者・療育者及びその介護者 1名 : 無料 ※DMをお持ちの方は2名まで入場無料となります。20名以上団体2割引。



妙義ふるさと美術館
 MYOGHI HURUSATO MUSEUM OF ART

〒379-0201 群馬県富岡市妙義町妙義1-5
 Tel.0274-73-2585

JR 前橋本線松井田駅からタクシーで10分

myoghi 29ennale
 http://myoghi.jimdo.com/

29ennale とは



妙義29ennale (みょうぎ29エンナーレ)は、富岡市妙義町にある公立美術館、妙義ふるさと美術館の企画展示室で2010年7月~8月で行われる展示で、妙義29ennale実行委員会が企画運営を行っています。群馬県出身の若手美術作家を中心に群馬を愛する作家が群馬の土地で展示を行い、群馬の土地に住む人たちが展示を見て来て群馬の美術の発展を盛り上げる、という群馬における美術の自産自消と地産地消を目指して活動しています。

妙義29ennaleから始まったこの企画展示は、今年で三回目の開催となるもので展示名は「妙義で行われる29年に一度の美術の祭典」という意味の造語です。初年は個展だったものが、次年開催された妙義28ennaleとなりグループ展となりました。また、妙義町は古くから青木繁など著名な画家が訪れ、その風景を描いている地でもあります。歴史ある妙義町にゆかりのある若手美術作家が集まる「妙義29ennale」。是非会場にてご鑑賞下さい。

※本展覧会一帯の土地の所有権がその土地所有主、という考えから、
 ※本展覧会一帯の土地の所有権がその土地所有主、という考えから、

Aoki Ken 青木 健

1989 埼玉生まれ
 2010 東京藝術大学 美術学部絵画科油画専攻在学
 2009 取手 Art Path2009 (取手)

青木 (あおき けん)くんは、東京大学に在学中の学生です。青木くんの作品は人々の想像を掻き立てる作品が多く、その想像力、形などから「マッシュルーム」(マッシュルーム)は、もともと素材や材質などを美しす言葉で、現在では絵画作品の表面の質感を表現していることも多い言葉です。筆致、色彩などで感覚的に表現しています。作品ごとに色やマッシュルームはさまざま。作品に出てくる人達は一体どんな人達で、そのときどんな情景があったのでしょうか。

Endo Natsuka 遠藤 夏香

1984 群馬生まれ
 2006 多摩美術大学 美術学部絵画科油画専攻在学
 2010 武蔵野美術大学 美術学部油画専攻在学




遠藤夏香 (えんどうなつか)さんは、日常の何気ないこと、もの、場所が想像を掻き立てる作品が多く、その想像力、形などから「マッシュルーム」(マッシュルーム)は、もともと素材や材質などを美しす言葉で、現在では絵画作品の表面の質感を表現していることも多い言葉です。筆致、色彩などで感覚的に表現しています。作品ごとに色やマッシュルームはさまざま。作品に出てくる人達は一体どんな人達で、そのときどんな情景があったのでしょうか。

Otake Natsuki 大竹 夏紀


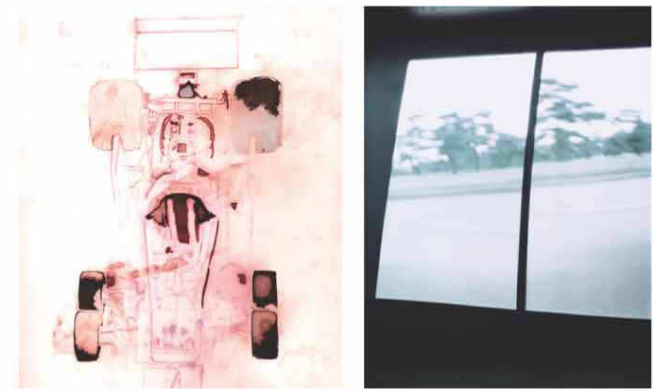
1982 群馬生まれ
 2006 多摩美術大学 美術学部デザイン学科キタイルデザイン専攻卒業
 2008 多摩美術大学 大学院デザイン専攻デザイン専攻在学




伝統的な染織技術である、織りつづめ (こうつづめ)で「キラキラ」のアイディアを思いついた大竹さん。大竹さんの言う「キラキラ」とは、例えば、人がアイディアを思いつくとき、その瞬間に「キラキラ」という光が輝いて見える、アリの巣、などに見えたりする現象のことです。「キラキラ」は、人がアイディアを思いつくとき、その瞬間に「キラキラ」という光が輝いて見える、アリの巣、などに見えたりする現象のことです。大竹さんの作品の「キラキラ」を見て、明日への発見をもらってください。

Kishi Kyohei 岸 恭平



1978 群馬県桐生市生まれ
 2002 建築 (前期)
 2004 FRONT BRIDGE 建築研究所 (前期)
 2004 高橋玄文建築 東京大学内 (上期)
 2005 建築士の道 株式会社 (千葉)
 2005 サステナブルアートプロジェクト (入居)
 2009 妙義29ennale (前期)

岸恭平さんは建築やバイクなどを作品に良く描いていますが、それらと日本の伝統的な美術 (寺社仏閣、仏像彫刻) に共通点を見出し、作品に表しています。例えば、岸さんの作品の車輪の線が、日本の伝統的な美術の線と共通点を見出し、作品に表しています。例えば、岸さんの作品の車輪の線が、日本の伝統的な美術の線と共通点を見出し、作品に表しています。例えば、岸さんの作品の車輪の線が、日本の伝統的な美術の線と共通点を見出し、作品に表しています。

Koiso Tatsuya 小磯 竜也



1989 群馬県藤井市生まれ
 2008 群馬県立芸術高等学校美術科コース卒業
 2010 東京藝術大学 美術学部絵画科油画専攻在学

東京大学2年生の小磯君は群馬県出身です。美術を勉強しつつも、美術のために生活するのではなく、生活を豊かにするために美術を学びたいと言います。そして、生活を豊かにするために美術で感覚を磨きたいという小磯君の作品は日本の風景を切り取り、再構成し、当たり前の日常の風景を捉えようとしています。「カワイイ」ものを多く描くことを楽しみ、見る人にカワイイと感じてもらえれば嬉しいです。「カワイイ」は観る人一人一人です。

Nukui Daisuke 温井 大介

1981 群馬生まれ
 2006 東北芸術工科大学 芸術学部美術科油画専攻卒業
 2006 第29ennale (妙義ふるさと美術館)
 2009 妙義28エンナーレ (妙義ふるさと美術館)

温井大介さんは、キャンパス=布という概念を拡張して、色々な布に作品を描いています。例えばロールキャンパスに作品を描いて巨大な壁紙を巻いたり、シャツにキャンパスの布の一部分という考えからTシャツに作ったキャンパスに作品を描いたりです。毎年参加している作家さんですが、今年はどういった作品が見られるのでしょうか。

Nukui Yuko 温井 裕子

1984 群馬生まれ
 2008 武蔵野美術大学 美術学部油画専攻卒業




温井裕子さんは、カワイイものやパズルカルチャー的なものを描いています。「カワイイ」というのは日本特有の感覚であり、日本には「カワイイ」ものがあふれている、という温井さん。「カワイイ」ものを多く描くことを楽しみ、見る人にカワイイと感じてもらえれば嬉しいです。「カワイイ」は観る人一人一人です。

Hasemi Taichi 長谷美 太一



1987 東京生まれ
 2010 東京藝術大学 美術学部絵画科油画専攻在学




東京大学2年生の長谷美君は子供の頃の感覚に興味を持ち、表現したいと考えています。ただ、子供の頃の感覚を表現したい、という訳ではなく、大人の視点で子供の感覚を考えたとき、こうではないか、という作品を描いていきます。長谷美君の作品で子供の頃の感覚を思い出して下さい。

Miki Manami 三木 真菜美

1989 群馬生まれ
 2010 東京藝術大学 美術学部絵画科油画専攻在学

妙義29ennaleにも参加した三木さんは、もともと妙義山が近くに生える地域に住んでおり、地元愛の強い作家の一人です。また、妙義山で作品を制作中、一貫しているものの中には、小さいころ見た妙義の山、河などの風景画、といえます。三木さんの作品に出てくるさまざまな抽象的な形は、妙義の山や河の空気の形から来たと見られます。